



京都大学
KYOTO UNIVERSITY



京都大学
KYOTO UNIVERSITY

創立125周年記念事業
2022年度 活動報告



発行・企画 国立大学法人京都大学

〒606-8501 京都市左京区吉田本町
TEL 075-753-2210
FAX 075-753-2286

無断転載を禁じます。

2023年10月発行



The 125th Anniversary of
Kyoto University Commemorative Project

125

創立125周年記念事業

■ 2022年度 活動報告

京大力、新輝点。



京都大学総長 湊 長博

Message from the President

京都大学は 1897(明治30)年、社会における科学・技術の役割の急速な拡大を背景として、創造的な研究を通して人材を育成するという理念の下に、わが国で2校目の帝国大学として創立されました。爾来、京都大学は、自由で創造的な研究を尊び、「地球社会の調和ある共存に貢献すること」を基本理念として、新たな知的価値の創出によりノーベル賞やフィールズ賞の受賞者を数多く輩出するなど、我が国を代表する研究型大学として長い道のりを歩んでまいりました。

2022(令和4)年に創立125周年の節目を迎え、今後も京都大学が自由の学風の下、創造の精神を涵養する学問の府として世界での存在感をさらに高めるため、「京大力、新輝点。」をスローガンに、「国際競争力強化」、「研究力強化」、「社会連携推進」という三つの事業を柱とする記念事業を計画した次第です。

お陰をもちまして、法人・個人の多くの皆様から目標額を上回る101.2億円相当、延べ14,897件ものご支援を賜りました。京都大学を代表して厚く御礼申し上げます。これらのご支援は、125年の歴史の中で進めてきた力強い歩みを確実に未来に繋ぎ、京都大学が新たな知の創造と豊かな人材の

養成によって社会に貢献する大学として一層進化することへの夢や希望を付託いただいているものであらうと認識しております。

京都大学は既に次の四半世紀に向けて歩みを止めることなく走り続けております。人口減少の厳しい時代を控える中で、「人」の持つ力を信じ、研究力のさらなる強化と研究成果の社会への実装による人々の生活と健康向上への貢献のために、自立的な大学組織の構築に向けて全力を尽くしてまいります。これによって、社会から揺るぎない認知と承認を得られる大学へと発展を遂げ、新しい研究大学の形を作り上げていく所存です。

最後に、京都大学創立125周年記念事業に対して、同窓生をはじめとする多くの個人の方々、企業、団体の皆様に多大なご理解とご協力を賜りましたことに、改めて衷心より感謝申し上げますとともに、今後とも本学へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

京大力、新輝点。



創立125周年記念事業

■ 京都大学創立125周年記念事業

2022年6月18日、京都大学は創立125周年を迎えました。
創立125周年記念事業では、以下の事業を展開してきましたが、
新たな知やイノベーションの創造、次世代を担う人材育成などの取り組みは、
125周年後も続いていきます。
これまで取り組んできた事業と進捗状況について紹介します。

1 国際競争力強化 ～グローバルリーダーの育成～

京都大学は自由に学べる精神的風土を培ってきました。この風土を継承しながら、
人々を導くことができる、したたかで強靱な次世代のグローバルリーダーを育成します。

2 研究力強化 ～次代の“おもしろい”若手の育成～

研究者たちが豊かな環境の中で、新しく独創的な発想、言うなれば“おもしろい”ことに
取り組んできた京都大学の伝統のもと、若手の育成に努めます。

3 社会連携推進 ～京都アカデミズムの創造発信～

新たな産官学連携モデルを構築・活用するとともに、
アントレプレナー教育や京大ベンチャー支援などを行います。

4 大学環境整備 ～魅力あるキャンパス環境～

大学設備として、国際的にも魅力あるキャンパス環境に資する
学生の福利厚生施設などの整備を行います。

5 創立125周年記念行事 ～「京大カ」を感じられるイベントの開催～

2022年を125周年イヤーとしてさまざまな記念行事を展開しました。
6月は2日間にわたり、ロームシアター京都にて記念式典やフォーラム、音楽会などを開催しました。
また、11月にはホームカミングデイに併催する形で、
特別シンポジウムやプロジェクションマッピングなどを実施しました。

国際競争力強化 ～グローバルリーダーの育成～

「Kyoto iUP」留学生への奨学金の創設

Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program) は、入学段階での日本語能力を問わず、入学決定後の徹底した日本語教育により、専門教育段階から日本語で講義等を行う留学生育成プログラムです。本事業では、Kyoto iUP 生一人当たり月12万円の奨学金の一部を支給し、勉学に集中できる環境を構築します。

2022年度には520名の出願者から26名を予備教育履修生として受け入れ、予備教育履修生・学部生合わせて75名となり、2022年度末には初めて卒業生を輩出しました。本学で人気の米国短期留学プログラム「Kingfisher Global Leadership Program」には、

9倍の競争率を勝ち抜き3名のKyoto iUP 生が参加しました。ワシントンDCの各種機関を訪問し、日本人学生や大学院留学生と切磋琢磨しながら、グローバルな視点でリーダーシップスキルを育みました。

また、Kyoto iUP 生は2022年度に新設した「国際高等教育院国際教育プログラム」に参加している日本人学生と共に、英語で実施される全学共通科目を履修し、共同でグループワークやプレゼンテーションに取り組むなど、国際性豊かなキャンパス環境の創造にも貢献してきました。

Kyoto iUP では、今後も留学生受入を拡充し、優秀で志高い人材の日本社会への輩出に努めていきます。



2022年度予備教育履修生



日本人学生とグループワークを行うKyoto iUP生



Kingfisher Global Leadership Program (NASA訪問時)

Kyoto iUP
<https://www.iup.kyoto-u.ac.jp/>

国際高等教育院国際教育プログラム
<https://www.z.k.kyoto-u.ac.jp/for-internal/international-education-program>

学生海外研究活動助成金(大学院生対象)の拡充

2021年10月に設置された大学院教育支援機構・グローバル展開オフィスでは、フィールド調査や、国際学会での研究発表、海外での共同研究、海外の研究室で研究指導を受けるなどの目的で海外へ渡航する本学大学院生を支援するため、新たに大学院教育支援機構(DoGS) 海外渡航助成金を創設しました。

2022年度は105件の応募の中から、特に優れた36件を採択し、一人あたり最大40万円を支援しました。渡航対象国・地域は、アジア・中東・北米・ヨーロッパ・アフリカの5地域24カ国に及びます。これらの渡航の報告書は、大学院教育支援機構のウェブサイトで公開しています。

2023年度は前期・後期の2度募集を行い、本学大学院生の国際教育と大学院全体のグローバル展開をより積極的に推進していきます。



海外研究活動発表の様子

京都大学大学院教育支援機構HP
<https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学大学院教育支援機構/国際高等教育院/国際・共通教育推進部 News Letter
<https://www.kugd.k.kyoto-u.ac.jp/newsletter/>

交換留学支援

本事業は、国際社会において真のリーダーとして活躍することを目指して、2022年度から交換留学等を行う学生を対象に、留学奨励金の支給を開始しました。

留学奨励金の支給を通して、海外留学での経済面の負担による不安をめぐい、国際環境への積極的な挑戦を促すことで、国際社会でリーダーとして活躍する素養を育むための学びの機会を広く提供することができます。また、世界的視野を持ったグローバル人材を育成するという大学の社会的な役目を果たす一助となります。



シドニー大学・山崎友里加



ソウル大学校・竹田響

2022年度は、7～12月出発の大学間学生交流協定に基づく交換留学生のうち、支援金を希望した学生43名に、1名につき12万円、総額516万円の支援を行いました。この43名の交換留学先は、それぞれが希望した17カ国34大学に及びました。2023年度以降は、2022年度に新たにスタートした国際高等教育院国際教育プログラム等に参加する学生の支援としても本奨励金を活用し、本学における教育の国際化をさらに推進する予定です。

特に優秀な留学生に対する就学支援・渡航費支給

本事業は2023年度からの事業開始を想定し、「短期交流スカラーシッププログラムを活用した外国人留学生の受入れ促進」および「Kyoto iUP生の本学大学院への進学促進」を進めてきました。

現在、優秀な海外の学生に対して効果的なリクルート活動を行い、本学大学院に進学させる枠組みの構築が喫緊の課題となっています。そこで、「短期交流スカラーシッププログラムを活用した外国人留学生の受け入れ促進」では、新たに日本語能力を前提としない研究室への短期交流プログラムを企画・実施することと併せて、その参加者に対して本学大学院進学後の経済支援を行います。本プログラムは、学生の本学大学院入試受験に先立ってリクルーティング・マッチ

ングの機会として活用することができるため、その効果は極めて大きいものとなります。

「Kyoto iUP生の本学大学院への進学促進」は、本学が実施してきた学部課程の留学生向けプログラムであるKyoto iUPの学生を対象に、特に優秀で、本学大学院への進学に強い意欲を持つ学生に、進学後の経済支援を約束するプログラムです。

世界のトップ大学が熾烈な人材獲得競争を繰り広げるなか、大学院レベルの留学生に対して十分な経済的支援を行うことは、欠くことのできない重要な取り組みとなっています。

海外大学との学生スポーツ・文化交流の支援事業

創立125周年記念事業の一環として、また、京都大学ラグビー部の創部100周年を記念して、2023年4月15日に京都大学とオックスフォード大学のラグビー部による記念試合を京都大学丸和運輸機関ラグビーフィールドで、翌16日に記念講演会を百周年時計台記念館で開催しました。

記念試合はあいにくの雨でしたが、選手たちは白熱した素晴らしいゲームを展開しました。着実なセットプレー、前に出た鋭いタックルが功を奏し、23対15で本学が勝利をおさめました。

記念講演会では、Reginald Clarkオックスフォード大学ラグビー京都遠征チーム団長から、ラグビーフットボールの歴史や魅力につ

いての講演がありました。記念講演会終了後には意見交換を行い、継続的なスポーツ・文化交流を行うことを確認しました。

本事業を通じて、多様な文化や考え方を肌で感じ、スポーツや文化を通じた国際交流が世界の人々との相互理解や認識を深めることにつながるのだと実感できました。

また、この国際交流をきっかけにして、オックスフォード大学遠征担当者から、オックスフォード大学大学院への留学を希望する本学の学生がますます増えるように、「オックスフォード神戸奨学金」の案内がありました。国際競争力強化・グローバルリーダーの育成につながる、ふさわしい貴重な機会が得られました。



試合風景



集合写真



記念講演

京都大学HP掲載記事

「創立125周年記念事業 オックスフォード大学ラグビーチーム (Oxford Greyhounds) 来日記念試合・記念講演会を開催しました」
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2023-05-01-2?fbclid=IwAR11cDUZQcyu5RjNYEe9--PixW1J6lyQXB9c43806ef0C3EicFqZA1Rj4D4>

京都大学HP「海外へ留学する京大生向け奨学金」

<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student-3/scholarship>

125周年記念事業募金を用いた授業料免除の拡大

新型コロナウイルス感染症の影響により、意欲と能力のある学生が経済的理由で修学・進学を断念することなく、希望する教育を受けられるように経済的な支援を行うことが本事業の目的です。

125周年記念事業募金を充当し、「緊急学生支援プラン」の一環として授業料免除の拡大を行いました。具体的には、学費負担者等の収入減により本学の授業料免除基準に該当することとなった学生に

対して、半額免除に該当するところを全額免除とするなど支援を実施しました。

従来の授業料免除予算に加え、125周年記念事業募金から前期約1.9億円、後期約1.8億円を充当したことで、学生が学業を継続するための一助となりました。

若手研究者への研究費支援

本事業では、研究者が意欲と能力を発揮しやすい環境整備を図るため、若手研究者のスタートアップに対する研究費支援や、研究のさらなる進展を研究費の面から支援する学内ファンドを展開しました。

とりわけ、京都大学創立125周年記念ファンド「くすのき・125」は、本学の研究力強化に向けた取り組みとして2020年度に設立された斬新かつ大胆なファンドです。既存の価値観にとらわれない自由な発想で、次の125年に向けて調和した地球社会のビジョンを自ら描き、その実現に向けて挑戦している50歳未満の若手・中堅の常勤研究者が支援対象となります。

125周年記念事業への寄付金を活用し、採択された研究者個人に

最大500万円を支給し、短期的な成果にとらわれず、じっくりと腰を据えて学問の本質に迫れるように用途の自由度を高め初年度に一括配分しました。設立以来3年間で延べ414名の応募があり、39名を採択しました。

未来へのビジョンや研究にかける情熱などを採択者にインタビューした記事や動画、パンフレットについて、京都大学学術研究展開センターの特設サイトにて随時公開しています。熱い思いを胸に研究に邁進する研究者の生の姿をぜひご覧ください。

2020年度くすのき・125採択者

氏名	研究タイトル
稲谷 龍彦	実証法学的確立に向けた法学方法論の探究
大山 修一	アフリカの人道危機を解決する実践平和学
金 賢得	核の個性が顕在化する分子科学から水素社会の実現へ
佐藤 宏樹	環境保全と経済開発が調和する生態系デザイン
菅瀬 謙治	非平衡生体分子科学が築く健康長寿社会
鈴木 淳	不要細胞の除去から目指す健康寿命の永続
滝 真奈	がんの上皮間葉転換を免疫治療で制御できるか
土居 雅夫	サクセスフルエイジング実現のための脳老化克服
沼田 圭司	生物素材の学理に基づいた循環型材料の創出
林 悠	「眠れる力」を呼び覚ます脳科学で創る夢の未来
南 英治	低温プラズマを援用したバイオリファイナリー
宮部 貴子	人と動物の調和した地球社会を目指して：動物福祉科学

2021年度くすのき・125採択者

氏名	研究タイトル
上田 竜平	美を体験するところと脳-実証的人文科学の確立
岡崎 友輔	環境微生物・ウイルスのドライな謎にウエットに迫る
桑田 昌宏	「音」を利用した次世代バイオテクノロジーへの挑戦
上月 遥	発達障害への理解が切り開くダイバーシティ
塩見 美抄	公衆衛生看護ケアのイノベーション基盤の構築
田中 洋光	神経細胞を用いた高次脳機能再現法の確立
田畑 阿美	「脳腫瘍になった。だけど未来がある」を支えたい
寺村 謙太郎	「たいよう」と「みず」の力によって実現するカーボンニュートラル
徳山 奈帆子	ヒトと動物の共存する未来のために
中島 大輔	臓器提供数と移植数の調和を目指した肺移植医療の実現
藤田 大士	第三の素材：高機能タンパク質のデバイス素子化
最上 晴太	健康な赤ちゃんを：前期破水・早産を減らす
森口 佑介	子どもが未来を選べる社会の実現：未来開拓学
藪塚 武史	医療レス社会の実現に貢献する「アバタイト学」の構築

2022年度くすのき・125採択者

氏名	研究タイトル
稲葉 真史	筋収縮の波を使って臓器の「かたち」を創り出す
大宮 寛久	サステナブル有機合成
後藤 明弘	「記憶」研究を社会応用するための技術開発
澤山 和貴	地球熱システムの包括的理解が拓く地球と共存する社会
志津 功将	持続可能なエネルギー利用を実現する振電工学
宋和 慶盛	酵素と電極の直接接合によるバイオメテイクス
田鶴 寿弥子	東アジアの木彫像の用材をめぐる学際融合研究
中島 良太	がんの遠隔転移は予防できるのか？
中村 秀樹	「細胞内マイクロ建築学」の創成
浪花 晋平	化学反応の「振動」と光触媒で実現する化学デバイス
原田 英典	未来のサンテーションが実現する自由なくらしと水・物質循環系
松本 光太郎	オージェ電子を用いた新規放射線治療を創出する
向吉 恵	「乱雑さ」の科学から生まれる新しい物質開発

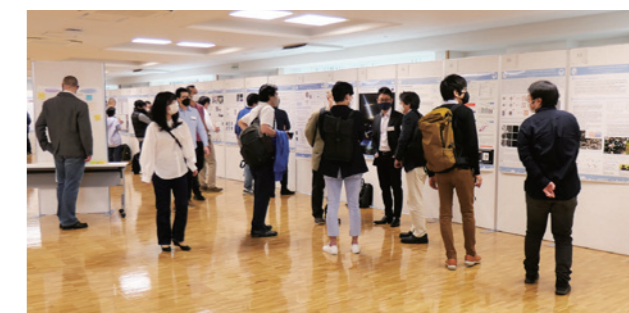
「白眉プロジェクト」を中心とした若手教員の活躍の場を増強

本事業は、次世代を担うグローバル人材の育成基盤を強化し、優秀な若手研究者を育成するため、自由な環境のもとで研究に専念し、活躍できる場を増強するものです。

本事業により、2020年度から2021年度にかけて採用した白眉研究者18名のうち5名を継続して雇用することができ、また、2022年度の新規採用者15名のうち8名を雇用しました。2022年6月には125周年記念事業「研究の魅力を見出す“鏡”プロジェクト」を開催し、白眉研究者7名がオンラインで研究活動・成果の発信を行いました。

また、白眉プロジェクトグローバル型について見直し、白眉研究者が本学に研究者として定着することを図る制度を整備したほか、男女共同参画推進の観点から女性研究者の採用を強化する旨を公募要領に明記しました。2023年度の公募は2023年4月より開始し、2024年4月1日に20名程度を採用予定です。

指定国立大学法人構想および第4期中期目標・中期計画においては、目標期間最終年度までの白眉プロジェクトによる研究者採用数の評価指標として累計325名を掲げており、2023年3月に本指標が「意欲的な評価指標」に指定されました。今後、目標達成に向けて積極的に国際公募を進め、本学の若手研究者の活躍の場を増やすことに貢献していきます。



第12回年次報告会

京都大学白眉センター HP <https://www.hakubi.kyoto-u.ac.jp/>

研究支援体制の強化

本学では、学術研究展開センター（KURA）を設置し、外部資金獲得支援業務だけでなくとどまらず、研究活動の国際化、研究情報基盤の整備、産官学連携業務の支援、異分野融合研究の推進等、本学の研究力強化につながるさまざまな支援を実施しており、本学創立125周年を契機に、URA体制の一層の強化を図ってきました。

2020年度から3名、2021年度から3名のURAを本事業により雇用し、KURA全体として、下記について重点的に取り組みました。

- ①大学経営・研究戦略の企画・立案および推進の支援（プロボストオフィス、IR、国際、指定国立大学法人構想への対応等）
- ②境界を超えた共同研究、大型研究事業の企画・立案および獲得の支援（大型競争的外部資金、部局横断・異分野融合研究、産官学連携事業等）
- ③大型研究事業のポストアワード支援

④若手研究者の研究推進・支援

2023年度以降も、研究活動の国際化、研究情報基盤の整備、産官学連携業務の支援、異分野融合研究の推進等、さまざまな支援を実施していきます。



京都大学アカデミックデイ2022「ちゃぶ台囲んで談話対話」実施の様子



京都大学アカデミックデイ2022「研究者と立ち話」実施の様子

京都大学学術研究展開センター HP <https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>

くすのき・125採択者インタビュー
<https://research.kyoto-u.ac.jp/kusunoki125/>

くすのき・125に関するHP
<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/support/risou/kusunoki125/>

産官学連携「京大モデル」の構築

本学では、研究成果・知的財産の活用促進に向けて、コンサルティング事業、研修・講習事業等を実施する事業子会社である「京大オリジナル(株)」、大学発ベンチャーへの出資を事業とする「京大大学イノベーションキャピタル(株)」および本学特許等の実用化・技術移転事業を行う「(株)TLO京都」、「IPSアカデミアジャパン(株)」が有機的に連携することで産官学連携の新しい「京大モデル」の構築を進めてきました。

本学の研究成果等の「知」の積極的な活用を目指すためには、本

学の研究教育活動の状況・魅力を、企業および一般の皆様を含め多くのステークホルダーにご理解いただく必要があります。

そこで、本学の知を活かした研修・セミナー等の展開を基礎として、企業等からのニーズを反映させながら、オーダーメイド型の交流企画の策定、リカレント教育などを含めた情報発信の強化、および社会(産業界・一般の皆様)との連携拡大を目指した取り組みを進め、2022年度は計24件のマッチングイベントや社会人向け教育プログラム等を実施しました。

京大オリジナルHP イベント掲載ページ https://www.kyodai-original.co.jp/?page_id=684

アントレプレナー教育への支援

アントレプレナー教育やベンチャー創出支援については、産官学連携本部が主体となって進めてきました。

イノベーション マネジメント サイエンス起業・教育部(IMS 起業・教育部)では、ベンチャー企業の最重要な資源は「人」と考え、将来新たな事業を起こし、リーダーとして活躍できる、高度な専門的知識とチャレンジ精神を兼ね備えた人材の育成に取り組んできました。基礎から実践までの各段階において、習熟度と関心レベルに応じた人材育成プログラムを提供することで、起業人材の裾野の拡大から、起業後の資金調達のためのメンタリングまでを行っています。

三菱みらい育成財団からの後援のもと2022年度に実施したプロ

グラムのうち「テクノロジーが美となる時」は伝統美を現代の技術で学生が再提案することをテーマに起業家的精神に資する異能を育成するもので、全国から応募のあった高校生および大学生23名が受講しました。受講者はチームで作品を制作し、選抜者7名が展示会に向けて渡米しました。ニューヨークのギャラリー NowHereで開催された展示会「Technology Reimagines Timeless Beauty」には3日間で約400名が、レセプションには現地のニューヨーク市民約200名が訪れ、国内の各種報道のほか、現地メディアでも取り上げられるなど、好評のうちに終了しました。



展示会の様子



参加学生集合写真



対談の様子

京都大学産官学連携本部HP
「アントレプレナーシップ教育」
<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/ims/>

京都大学HP掲載記事
プログラム「テクノロジーが美となる時」の展示会を開催しました
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2023-03-17>

ベンチャー育成事業の推進

産官学連携本部出資事業支援部門[※]では、京都大学における研究成果の起業による事業化を推進することを目的とした「起業支援プログラムIPG-Advance」を実施しています。

本学研究者と起業家が協力して事業化に向けた研究開発を実施し、事業戦略・知財戦略を構築・遂行することで京都大学の独創的なベンチャー企業を創出し、ベンチャーキャピタル等からの資金調達を目指すプログラムです。助成期間は原則1年間、助成金額は年間上限3,000万円です(1年間の更新が認められた場合、2期更新時

は上限2,000万円)。2022年度は11件の応募があり、4件の採択プロジェクトが決定しました。採択プロジェクトについては、プロジェクトの進捗・成果確認のため進捗報告会を開催するなど、出資事業支援部門において起業に向けたハンズオン支援を行っていきます。

2023年度については、2022年度採択案件のハンズオン支援とともに、第2回の公募・採択を行い、新たな課題への支援を行う予定です。

[※]「出資事業支援部門」は2023年10月より「スタートアップ支援部門」に名称変更。

「起業支援プログラムIPG-Advance」採択一覧

研究開発責任者所属部局	研究開発責任者職名	研究開発責任者名	事業化推進責任者所属	事業化推進責任者職名	事業化推進責任者名	課題名称
医学部附属病院	准教授	近藤 祥司	京都大学医学部附属病院	研究院	三河 拓己	細胞老化の病的生存能を標的とした加齢性疾患治療法の開発
生存圏研究所	特定准教授	西村 裕志	エポニックジャパン(株)/京都大学生存圏研究所	触媒部ビジネスマネージャー/研究員	吉武 惟一	全方位型リグノセルロース変換と革新的未来素材によるグリーンイノベーション
医学研究科	教授	柳田 素子	(株)エイトープサイエンス	代表取締役	鎌田 春彦	老化T細胞を起源とする三次リンパ組織を標的とした慢性腎疾患治療薬開発プロジェクト
医学研究科	教授	森本 尚樹	(株)レナートサイエンス	代表取締役	長谷川 雪憲	人工脂肪を活用した乳房再建の実現

京都大学産官学連携本部京大発ベンチャー支援 <https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/venture/>

大学環境整備 ～魅力あるキャンパス環境～

大学環境整備事業(留学生家賃補助・学生福利厚生施設の整備費用等)

本学の国際化・多様化を推進するため、2019年10月に新たな宿泊施設として百万遍国際交流会館および岡崎国際交流会館の供用を開始しました。

世界レベルで優秀な学生を獲得するには、研究・勉学に集中できる受入環境整備は欠かすことができません。そこで本事業では、低額な宿泊料金を維持しながら、留学生が安心・安全・快適な生活が送れるよう、これまでに、ユニットバス、宅配ボックス、目隠しフェンス、防犯カメラ等を設置するなど、両国際交流会館における住設

備を整備しました。今後も継続して、国際交流会館の適切な維持運営に努めるとともに、留学生の住環境サポートを行い、本学の国際化の発展へ貢献していきます。

また、老朽化、狭隘化の進んだ学生食堂などの改善を図るため、学生の福利厚生施設の整備を行うことを計画しています。2022年度においては施設の整備構想を検討し、2023年度以降については施設の計画や設計を進めています。国際的にも魅力あるキャンパス環境に資する学生の福利厚生施設を整備していきます。

京都大学国際交流サービスオフィスHP 百万遍国際交流会館
<https://kuiso.oc.kyoto-u.ac.jp/housing/hyakumanben/>

京都大学国際交流サービスオフィスHP 岡崎国際交流会館
<https://kuiso.oc.kyoto-u.ac.jp/housing/okazaki/>

創立125周年記念行事 ～「京大力」を感じられるイベントの開催～

[6月の記念行事]

記念式典

式典では湊博総長をはじめ、歴代の京都大学総長、田中英之文部科学副大臣、澤田純 京都大学副学長・日本電信電話株式会社代表取締役社長 社長執行役員、京都府副知事、京都市長の9名が登壇。全国の大学学長、衆参議員、本学支援者らなど多くの来賓者の出席のもとで執り行われました。

式辞では湊総長がこの25年間の大学院研究科の7増設、大学院生と教職員の増加を例に挙げ、「京都大学の過去半世紀は、本格的な研究大学としての飛躍の時代であった」と述懐。さらに「今後の学術は異なる領域同士が結合し、新領域でのイノベーションを起こ

すことが求められ、そのためにはグローバル化が喫緊の課題である」と力を込めました。

田中副大臣は祝辞でオンサイトラボラトリーの設定や京大モデルといった産官学連携の取り組みなどについて触れ、「これまでの125年の歩みを未来につなぎ、世界を先導する研究大学としての真価を発揮し、社会に貢献されることを期待しています」とエールを送りました。

式典の最後は学歌静聴で厳かに幕を閉じました。

※肩書きは当時のものです。



歴代総長をはじめ9名が登壇



湊博総長

記念フォーラム

テーマは「真理の探究と地球規模の課題解決」。京都大学ノーベル賞・フィールズ賞受賞の系譜をまとめた12分間の映像上映では、1946年に日本で初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士に始まり、朝永振一郎博士、福井謙一博士といった11名の本学にゆかりのあるノーベル賞受賞者を紹介。また数学におけるノーベル賞と言われるフィールズ賞を受賞した廣中平祐博士、森重文博士の功績も伝えました。

その後はノーベル賞受賞者5名による講演と利根川進博士からの

ビデオメッセージの上映、湊総長をファシリテーターとしたパネルディスカッションが行われました。フォーラムはノーベル賞受賞者の話を直接聞ける貴重な機会とあり、来賓や関係者に加え、本学学生、高校生など多数の聴講者が参加。受賞者の学生時代の意外なエピソードや、偉大な功績を生んだ背景にある発想や創造のヒントなどの話に真剣に耳を傾けていました。フォーラムの様子はYouTubeを通じてリアルタイムで世界に発信されました。



ノーベル賞受賞者4名と湊総長によるパネルディスカッション



在学生や高校生たちも熱心に耳を傾けた

OB・OG 講演会「アスリート魂 ～勉学とスポーツ、そしてその先へ～」

プロスポーツ界で活躍したOB・OGの3名が講演しました。元女子ラグビー日本代表の中嶋亜弥さんは「女性らしさとは何か」を問う動画を用い「自分がなれる最高の自分になろう」と力説。元プロ野球選手の田中英祐さんは自身の経験から「焦ることと努力は違う。体と心のSOSに耳を傾けて」と訴えました。競歩選手の山西利和さんはビデオメッセージを寄せました。座談会では「スポーツと学業の両立」などをテーマに、OBでアナウンサーの岩本計介さん、新美彰平さんの軽快なトークで盛り上がりしました。



中嶋亜弥さん

創立125周年記念アカデミックマルシェ

14の学部・研究科・サークルと、同窓生が活躍する10の企業ブースが出展し、研究成果や製品を発表しました。木材生まれの新素材でつくった自動車のVTRによる紹介のほか、「傾聴ロボット」との会話や、北山杉を使ったお箸づくりに挑戦するコーナーもあり、参加者は五感を使って最先端の研究を体感していました。企業ブースでは、125周年記念パッケージの「萩の月」や農学研究科附属農場とコラボした新柑橘の発泡酒などが販売されました。ものづくり×ビジネスサークル京大工房によりスタンプラリーも実施され、50個限定の景品は開始後およそ40分でなくなるほどの盛況ぶりでした。



たくさんの人で賑わうアカデミックマルシェ会場

京都大学アカデミックデイ2022 ～創立125周年記念～

さまざまな領域の研究者と市民が直接対話する名物イベント。研究者が参加者に研究内容をわかりやすく説明する「研究者と立ち話」、異分野の研究者同士が意見を交わす「クロストーク」、約100冊の愛読書を紹介する「研究者の本棚」などが実施されました。

「ちゃぶ台囲んで膝詰め対話」では、ナメクジ研究の宇高寛子助教のちゃぶ台に子どもたちが集まり、「ネバネバはどうやって出るの?」「塩をかけたらなぜ溶けるの?」などの質問が活発に飛び交っていました。



研究者4名によるクロストーク

体育会主催イベント 「京大体育会、まるごと魅せます」

京大体育会55の部活による個性豊かな動画を一挙に上映。オンラインによる投票も行われ、1位ラグビー部、2位グライダー部、3位サイクリング部の順位が決定しました。

座談会ではアメフト部出身でスポーツコミュニケーションKYOTO株式会社代表取締役社長(当時)の森田鉄兵さんと硬式野球部出身の新美彰平さんが登壇。「学業をしっかりやっている自信があってこそ部活に打ち込める」など、文武両道を確立するアドバイスや体験談を話しました。また応援団によるパワフルな演舞演奏も会場を圧倒させました。



体育会OBによる座談会

創立125周年 記念音楽会

本学出身でソプラノ歌手の飯田みち代さん、チェリストの谷口賢記さんと京都市交響楽団が共演。指揮に広上淳一さん、ピアノにイリーナ・メジャーエワさんを迎え、本学卒業生の酒井千佳さんの司会のもと、ヴェルディのオペラ「椿姫」やハイドンの「チェロ協奏曲第1番」など全5曲を披露。卒業生3名のトークセッションでは飯田さんが「他者の感覚を理解し受け入れるという心理学の専修経験が、オペラで役を演じる際に生きている」、谷口さんは「学生時代にサイエンスを学んだ素養から、現在アートと科学をつなぐ活動に取り組んでいる」と話し、大学での学問の先に今の音楽活動があることを伝えました。



飯田みち代さんのひやかな歌声を披露

創立125周年記念行事 ～「京大カ」を感じられるイベントの開催～

[秋の記念行事]

創立125周年記念特別シンポジウム

前半は、京都大学CFプロジェクト等に多大なご支援をいただいている建築家の安藤忠雄氏、本学法学部卒業生で小説家の平野啓一郎氏が講演。平野氏は在学中の1999年に当時最年少の23歳で芥川賞を受賞。安藤氏は元ボクサーであり、現在は建築家として世界を舞台に活躍されています。両者の経験や視点から、「人間と環境」、「地球は一つ」というタイトルでそれぞれお話しいただきました。

後半は、講演者2名に本学文学部卒業生で俳優の辰巳琢郎氏、

湊長博総長を交えたパネルディスカッションを行いました。佐藤卓己京都大学理事補・総長首席学事補佐・教育学研究科教授をモデレーターに「社会が求める人材像について～本学卒業生としての期待、本学支援者としての期待～」の題でトークを繰り広げました。6月のシンポジウムはノーベル賞受賞者を招いたアカデミックな議論でしたが、今回は登壇者によるざっくばらんな本音トークもあり、会場は笑い声が絶えない和やかな雰囲気となりました。



平野啓一郎氏



安藤忠雄氏



講演者2名に辰巳氏、湊総長を交えたパネルディスカッション

創立125周年記念プロジェクションマッピング

記念行事の締めくくりとして、百周年時計台記念館東側の総合研究13号館の壁をスクリーンとしたプロジェクションマッピングが行われました。京の東の守り神とされる「青龍」が水先案内人となり、1897年の創立からの歴史をダイナミックな映像と音で紹介。戦前の校舎や授業風景に始まり、1925年の時計台竣工、1947年の京都帝国大学から京都大学への大学名称改称、1949年の日本初のノーベル

賞受賞など節目の出来事を白黒写真や新聞記事とともに投影しました。昔の研究成果だけでなく、「iPS細胞研究所設立」など近年における実績も伝えました。

会場には学生や卒業生、近隣に住む家族連れなども集まり、約8分間の映像が終わると盛大な拍手を送っていました。



オープニング



時計台竣工など節目の出来事を投影

京都大学総合博物館 記念展示 「創造と越境の125年」

100年以上前から本学に保存される紙製の人体解剖模型「キンストレーキ」や、明治15年に日本鉄道の開業用として輸入されたイギリスの蒸気機関車を模した木造模型、1962年に開始したBST（琵琶湖生物資源調査団）で使われた「ト口箱（魚箱）」などの貴重な模型・書籍・図面など約60点を展示。大学創立時の理工・法・医・文の四分科大学の時代から、自ら創造し越境する姿勢を持ち続けてきた大学教員や学生の研究活動の記録を公開しました。



京都大学の研究の歴史をひも解く展示の数々

京都大学大学文書館記念展示 「京大の周年記念行事 —史料でたどるお祝いの歴史—」

京都大学におけるこれまでの周年記念行事について、文書館所蔵の史料とともに紹介。創立10周年（1907年）記念式典での木下総長による手書きの式辞や、敗戦直後の50周年（1947年）に占領軍第一弾軍団ウッドラフ少将らが祝辞を贈った記述、バブル崩壊期の100周年（1997年）に戦後最長の不況に見舞われ記念事業の内容を再検討した記録など、政治や経済の情勢とともに変遷してきた本学の周年行事を振り返りました。



本学の周年記念行事を振り返る史料を展示

京都大学創立125周年記念 附属図書館所蔵貴重資料展示 「絵物語の貴重資料展」

お伽草子や奈良絵本といった「絵物語」をテーマに、貴重資料の中から6点を特別公開し、パネル展示とデジタル展示が行われました。疫病退散のお守りとして有名になった「アマビエ」を人々が描き写した1846年の「肥後国海中の怪」や、当時から美少年として名高かった牛若丸（源義経）の活躍を描いた「烏帽子折草子」をわかりやすいイラストや解説とともに紹介しました。

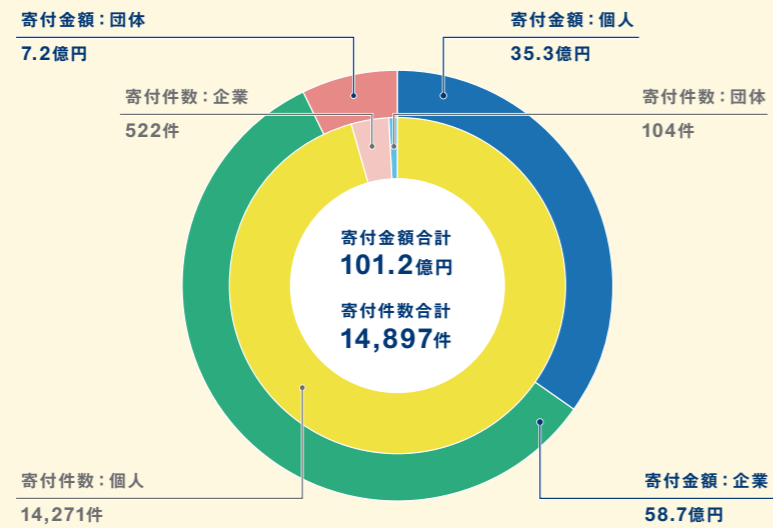


パネル展示を熱心に観る来場者

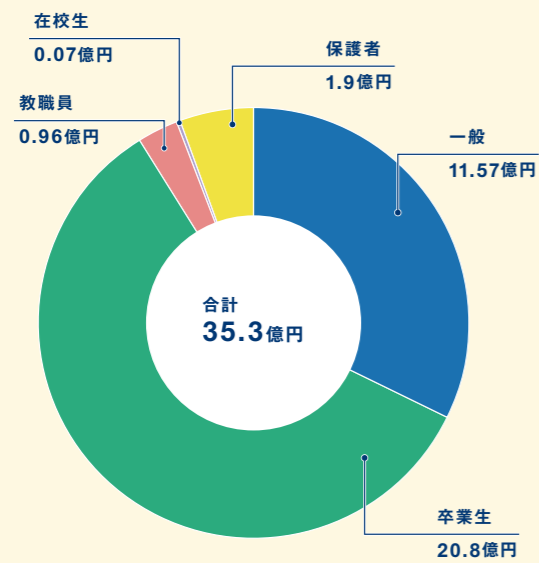
創立125周年記念事業募金について

創立125周年記念行事の推進や、未来に向けて“京大力”を磨き続けるための運用原資として、京都大学基金では125周年記念事業募金活動を実施してきました。多くの皆様からのご支援を賜り、目標金額100億円を達成し、総額101.2億円を集めることができました。

寄付金額／寄付件数



個人寄付者内訳



京都大学125周年記念事業 予算額内訳

2023.3.31時点

